

●立教池袋高等学校の第二外国語教育について

○高校3年の自由選択科目（韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）定員20人

○韓国語は定員20人を維持（2014、2015年は抽選）

『高校生らしい授業』『動機づくり、モチベーションアップのための授業』を目標に授業を構成

1. 通常授業での文化学習、文化コンテンツ利用（K-POP紹介、映画鑑賞など）
 - ・毎週1曲ずつ生徒参加型でK-POPを紹介し、自然に連音化や活きた言葉に慣れてもらう。
 - ・夏休みに映画鑑賞を宿題にし、レポートを提出させる。
 - ・韓国のパースデーソングを教え、誕生日の生徒がいるときにみんなで歌う。
 - ・クイズ正式で韓国の文化を知ってもらう。
 - ・生徒の名前を韓国式で下の名前で呼ぶ。
2. 留学生との交流…立教大学の韓国人留学生を招いて交流
 - ・交流前に「日韓の高校生活」「食文化」「兵役について」「秋夕について」「伝統あそび」などのテーマを提示（相互紹介型、韓国紹介型）し、留学生には事前に話してもらうテーマについての写真や映像などを準備してきてもらい、生徒にはその内容に繋がる単語などを教えておく。
3. 文化体験授業（キムチ作り体験、テコンドー教室、新大久保探索）
 - ・キムチ作体験では機関に協力を依頼し、キムチ博物館でキムチの種類や歴史について学んだ後、キムチ作りを実際に体験してもらう。
 - ・テコンドー教室では校内体育館にテコンドーの師範を招き、テコンドー教室を授業時間に開催してもらう。
 - ・新大久保探索では、留学生と一緒に食事を取りながら、食事マナーや食文化についての話を聞く。

このような授業構成により、ただ言語を学ぶだけでなく異文化にも触れ、学生一人一人が外国に対して関心が芽生えたり、視野が広がるような機会を心がけている。

●私の授業について（アンジフン）

○初授業の日は、ユーモアがある自己紹介をしている。

「俺というやつは？」と学生に問いかけ、クイズ形式で9種類の項目から5つの真実（自分について）を探してもらう

1. 同時に3人の女の子から告白された（○）
2. 最高のイケメンである（○）
3. お笑い芸人のオーディションをうけたことがある（○）
4. 大学4年間奨学金をもらった（○）
5. 足が長い（×）

6. 背が 185cm である (×)
7. 今年 29 歳である (×)
8. 12 年間恋愛した女性がいた。(○)
9. ビッグバンの GD とそっくりだ。(×)

まず、ユーモアある自己紹介をすることにより、生徒との距離感を縮めることを目標としている。その次に数々の有名人と撮った写真を見せて、自分がどういう活動をしてきたのかを知らせる。

○簡単な自己紹介文を練習し、みんなに自己紹介してもらう。(教師がインパクトのある自己紹介をしたことにより、生徒たちの照れがなくなる)

○<有用な韓国語>と題して、若者の流行語を教える。(개이득, 핵이득)

○<これだけわかったら韓国語通>と題して、感嘆単語を教える。(え～VS 힐)

自分が出演、作成した映像を見せて活用方法を教える。

初回の授業でいかに生徒との関係性が近づくかによって、次回からの授業の集中力アップや今後の授業のやりやすさに繋がると思うので、面白くて、自分にしかできない授業を心がけている。

●第2セッション：高校の韓国語教育は学力形成、進路実現につながるか(山下誠)

山下：我々は言語教育に関わっている。韓国語はどのようなメリット、生徒にとってメリットがあるかと考えるか。

ジョンヨン：大阪の教員は在日の生徒がいるので、まずアイデンティティの形成を考える。日本の生徒にとっては国際理解、他文化理解ができるというメリットがある。

長渡：世界が広がる。英語以外に。この広がりという意味がある。

木村：ある男子にとっては、「イエポヨ」と言うことができるようになった。バイトで接客するお客さんに言ってあげたいことが言えるようになった。生活、アルバイトと教育が結び付いたことになる。

山下：我々は高校教育の一環として行っている。大学でも言語を行う。高校における韓国語の意味はどのように定められているのか。「第2外国語」学習指導案を見てみよう。「第1 複数の言語の学習を通じて、多の言語や文化に対する理解を深め、文化的な多様性に対する寛容な精神と・・・」

山下：「生活外国語」の教育目標(大韓民国)では、「人格の形成、・・・生活態度を育て、地球時代を生きていく市民の良識を・・・」というように哲学的な目標が立てられている。

山下：本校の筆履修科目の目的でも、「世界に目を向けて」など、哲学的な目的にも触れている。

山下：さらに生徒の感想では、「世界観の広がり」、「自分の使ったことのない言語への偏見の克服」「自立的精神の育成」などを読み取ることができる。

山下：鶴見総合の教育目標では、「自ら学ぶ姿勢を持った人材の育成」をきっかけ、「他者と関わる力」の育成、「自分を律する力の育成」、部活や行事に参加し、勉強し、未来を考えることの

できる自立した人間」と述べている。

山下：さまざまな科目が高校の再編の過程で生き延びるのか、無くなっていくのかに直面している。韓国語は生徒が、大学や専門学校に進学し、就職し、社会で生きていく上で、幸せになる上で、どのような意味があるか考えるか。韓国語を学んで、進路（出口）をどうするか。進路実現と学力形成がどのように実現されるかを、高大接続について考えていきたい。

山下：高大接続については大きな変化がみられる。大改革が平成 36 年（2024 年）に向けて進められようとしている。従来の「センター入試」を廃止し、「大学入学希望者テスト」および「基礎学力テスト」に教育を大きく換えようとしている。

山下：そのうち、「高大接続実行プラン」では、従来あった一般、AO、推薦の区分を無くし、一本化するということが言われている。他の入試が AO に近づくということかも知れない。いままでの知識偏重を改め、変えていこうと本気で取り組むということが打ち出されている。人口減少や空洞化、少子高齢化という社会の大きな変化の中で、これに対抗するためには、知識だけではだめで、課題解決の能力が必要である。自ら勉強し、課題に取り組み、思考し、表現していく、そのような方向で入試改革も進んでいる。いわばすべての学生にアドミッションポリシーを適用して選抜していこうと準備しており、高校教育でも「アクティブラーニング」が求められている。高校韓国語は従来からアクティブな学びを進めてきたのだけれど、これに加え、なおかつ知識・技能もレベルアップすることが求められている。

山下：従来型の入試制度が無くなるということで、どのような力を付ければいいのかを、学力の三要素としてまとめておきたい。それは、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、と言われている。

山下：これから 10 年以内に進められる「高大接続の工程表」を見て、何かできていて、何が足りないのかを整理してみたい。何かできていて、何ができていないのか、これから必要なものは何かを考えてみたい。自分の周辺の人と話し合ってみてください。そのような時間を取ります。

E さんのグループ：

生徒に目標を持たせる。自分で気づいて学ぶことで、偏差値は低くても韓国語ができるということで自信を持たせることができたが、これから真の学力形成につながるのかを考えないといけない。

前の方のグループ：

留学した生徒、エアライン科に進んだ生徒、大学でも韓国語を学び、自己肯定感を持たせることができた。できなかったことは、目的もなく、何となく進んだ生徒もいてどうすればよかったか。

山下：高大接続が、学力形成と進路実現につながるかという点について、大学側の報告をお願いした明日の議論に続けて行きたい。（第 2 セッション終了）

●昨日のまとめ（山下先生）

韓国のように第二外国語が制度化されていない状態で、ある程度成果を達成したが、生徒数としては少ない。しかし充実した授業ができるようになった。高等教育の中で定着していくためには、学力形成や進路などを考えていかななくてはならない。韓国語に関連した進路を選ぶ生徒も増えてきたため、今回このテーマを選んだ。

●大学教員の話

① 武蔵大学 渡辺直紀先生（レジメ2枚）（20分）

高校生受け入れ準備をどのようにしているのか。

- ・センター試験の現状

高大連携困難例、センター試験の韓国語科目の存在意義に疑問、問題が多い→日本高等学校科目に正式な第二外国語科目存在しない、外国語科目の一つとしてのみある、例えば英語の代わりにうける、など。

問題作成でどのレベルに合わせるか、など苦悩している。

高校で第二外国語を正式科目として文科省に認めさせれば問題は違ってくるのではないかと。

現在 AO 入試、推進入試と一般入試をする時期は違う。同じ時期にやることは文科省が認めていない。

優秀な学生をリクルートする大学としてはどの時期に入試するかは死活問題。武蔵大学の AO 入試のかたちは多言語に合わせた形でつくられた。高校進路指導でも最後の手段として AO 入試をいちかばちかで使う場合が多い。

- ・武蔵野大学の AO 入試（以下レジメ参照）
- ・交換留学事業→やや心配
- ・ TOPIK 5 級

このレベルの生徒が受けられる授業はなかなか成り立ちにくい。そのくらいの韓国語レベルなら大学では他の言語ならったほうがよい。でも韓国語教師の立場からは言いにくい。

大学の規模にくらべ多すぎるほどの韓国語・韓国文化関係の授業開講、他教科の先生からの疑問も。

民族学校出身者たちがよい役割をする。

- ・韓国語で講義・ゼミ

② 立教大学 石坂浩一先生（レジメあり）

1) 立教大学の外国語教育（以下レジメ参照）

2) 立教大学における朝鮮語教育（表）2015年7.7%（350人ほど）最大履修科目スペイン語

3) 高大連携について

2005 年度秋入試から朝鮮語科目設定、10 名ほどが受験

2014 年度より初修言語の立教独自の入試廃止、検定スコアで代行。

17 年度よりレベル調整検討

12 月 18 日のイベントの紹介

③ 立命館大学 庵途先生

- ・立命館大学の新 AO 入試について

募集人数（5 名）、学域（中国語・朝鮮語／キャンパスアジア）

(1) ～ (4)

選考方法：一次選考、二次選考（96 名応募）→11 名選考（8 割朝鮮語選択者）

- ・立命館大学：文学部について

関西最大の文学部、5000 名在籍

韓国語関係科目紹介（40 単位くらいとれる）

11. 立命館大学での韓国・朝鮮に関わる学び

12. キャンパスアジア・プログラムとは

立命館大学+広東外語外貿易大学+東西大学（釜山）が共同運営するプログラム

2010 年からパイロットプログラム実施、各大学 10 人、30 人が無事卒業、就職予定

17. キャンパスアジア・プログラムの学びの特徴

- ・2 か国を同時に学ぶ
- ・2 周する
- ・集団で学ぶ

21. 高大連携の成果と課題

- ・朝鮮語の教職課程の導入、センター試験検討
- ・関連企業との連携→どんな知識必要か。
- ・大学院進学

Q（黒澤）：中等教育の学習指導要領に第二外国語を入れるべきではないか、という提案についてどのように考えているのか。（黒澤）

A（渡辺）：英語に加えて 1 つ言語を勉強するということは大事だが…。文部科学省が認めると版図が変わってくるのではないかな。

A（石坂）：望ましいことだ。母語が日本語でない子どもも増えてきている。外国語を学ぶということについて、柔軟な発想が必要だ。日本の公教育は、日本の学校にいるのは日本人という前提があるがそれはどうなのか。学習指導要領へ第二外国語を入れることは、建前に終わらない「多文化」として位置づけられるため、良いのではないかな。（石坂）

A（庵途）：可能な限り様々なかたちで朝鮮に関する学びを広めるという意味では、第二外国語という選択をつくるということは良いのではないかな。（庵途）

Q（黒澤）：韓国に 30 年以上関わっていて、次の世代に韓国に関する知の蓄積を引き継がなくて

はならないという責務を感じる。知の蓄積は国の財産である。前の世代のものを次世代がどのように発展させていくかを考えなくてはならない。そのため、制度に落としていかないと次はないのではという懸念がある。ふつうの人が見てわかりやすいかたちで、どこかに落とし込む必要があるのではないか。外国語教育は英語一辺倒に流れていく現状がある。本校においても英語の力は強い。研修参加者は次のどのようなものを残すか真剣に考えなくてはならない。そのため、AO入試に関わっている3名をお招きした。

今、文部科学省では大学入試を変えていく際に、ビジョンを持ったうえで改革を行おうとしている。グローバル人材の育成という点で、韓国朝鮮語の果たす役割について3名の先生方はどう考えられるか。(黒澤)

A (石坂) : 単に言葉を教えるのではなく、いかに隣国としての韓国朝鮮をふつうにみることができるようにするかが大切だ。人間として、当たり前に向き合っていけるようにすること。また、コミュニケーションをとる楽しさをどう伝えるかを問われている。決して押しつけではなく、出会い、そして楽しめる「交流」というのが大学で教育に携わる者にも問われている。そのようなことを担っていける人材が求められている。そういった人材を育成することで社会に貢献できないか。

A (庵途) : 「グローバル」 = 「英語」、また「外国人」 = 「金髪」などというイメージを持っている人がおり、そういう傾向が激しくなっている。しかし、実は日本にとっての国際関係において一番重要なのは在日問題、沖縄問題などなど。まずは「国際」といった際に、日本の中から考えていける視点を与えることができればと思う。最近の学生を見ていると、新しい視点を持っている。今、学生らはスマートフォンを使って情報収集をしている。中学校や高校で K-POP を好きになり、現地(韓国)の人とチャットで K-POP の話をしたり、気になることをその場で調べるというのが当たり前になりつつあるが、リテラシーの問題を忘れてはならない。学生らは指針がない中で情報を収集しているのではないか。「多文化共生」、「グローバル人材」というが、留学生が当たり前のように身近にいるという現状があるので出発点から考え直さないとならない。どういった人をグローバル人材と呼ぶかを考えなくてはならないのではないか。

A (渡辺) : 英語一辺倒になっているという話が出ているが、英語教育をやるならそれでいいので本気でやってほしい。英語の授業のコマ数が増えるだけ、ネイティブの教員が英語で講義をするなどにとどまっている。グローバルに反対するわけではないが、そういったことについて考えるべきではないか。

Q (黒澤) : 様々な高校教員がいるがコミュニケーションのターゲットとなっているのが、高校生となっている。設立当時は高校生同志がつながることが難しかったが、現在は様々なデバイスを用い、交流することができる段階に来ている。子ども同士がコミュニケーションするには資格(語学検定)の有無は関係ない。そういった環境を利用して子どもたちの能力を伸ばしている。(外国語で) 難しい話はできないかもしれないが、学校、恋愛、歌手の話などはでき、互いに意思の疎通がとれる。そういった子どもたちが増えた一方で、大学で「何を学んだらいい

いの」という子が多い。現状には満足しているので何を学んだら良いのかわからないというわけだ。大学の先生から「大学ではこういう学びがある」という提示が必要であり、そういったところで高大接続が重要になってくる。そこで、大学の先生方にどういった人を育てていきたいのかを伺いたい。

A (渡辺) : 「学びが面白い」ということを伝えることが大事だ。韓国についていえば、現地に行って直接コミュニケーションをしながら情報を得ていく。実際に行って話をしてみて、自分で確認する。学生のレポートで引用されていたインターネット講義で、サムソンの内実を指摘したうえで批判し、独自の取材だとしたものがあったが、実は韓国内でもそういった指摘はある。韓国語での情報収集能力があるのかで、視点が異なってくる。そういったことを学生に教えている。

A (石坂) : 単純に言って、お互い状況は違えど、同時代を生きていることでの共通の課題など、互いの暮らしの場、立場を超えて共有できるものをきちんと見つける、そのうえで共感できる相手を見出す、それが学ぶことの意味。究極的にはそういったことや、マイノリティと寄り添って考えていける能力を身につける。そういった意味で「知ること」が「力」になると思う。

A (庵途) : キャンパスアジアをやる中で大きな目標があった。自分が生まれた町・国と同じ感覚で中国・韓国をとらえることができる人材を育成とするということだ。また、次の段階としては就職に、そして人生にどうやってつなげていくかが大きな課題だった。自分の学びをどうキャリアに活かすかを早い段階で伝えているが、就職先は多種多様だ。学んだことと直結しない企業に就職する学生もいるが、それもまた良いと思っている。韓国と直接つながっていなくても、そこでなんらかの新しい視点を持てるような教育をしていきたいと思う。

自分のゼミ生→在日介護施設の実態、ブライダル企業に就職する学生「韓国人の結婚相手選択方法」など出てきている。

●質疑応答

Q (山下) : 同じ言語教育に携わっているが、大学からの視点は新鮮だった。石坂先生のご指摘は象徴的だった。すでに体験はしているが、経験化できるかが課題。高校段階では楽しむだけでいいが、大学と連携することによってどう昇華させていくかがポイントとなる。また、庵途先生がおっしゃっていたように、キャリアと直結しなくても構わない。部活がそうだが、部活動というものは学校生活の大部分を占めているが、決してキャリアと直結しているわけではない。しかしながら、そこで培った能力があらゆるところで役に立っている。韓国語も同じである。中には、キャリアに直結する人もいるが、そうでなくてもいい。たとえば共感する能力を身につけることができるなどだ。そういったことを身につけることのできる教育をしてこそ韓国語教育は一人前になる。必修化のためには、こういったことが必要という議論がなされ、それが韓国語教育の質をあげていこう。今後、多様化の幅は狭まるかもしれないが、その中で韓国語教育にしかできないことをしていく必要があるのではないかと。

Q (左)：庵途先生が課題ということで教職課程をあげたが、大阪では教員志望者が少ない現状がある。採用が非常に不安定であるため、教職課程を設ける計画があるというのはうれしい。「どうして韓国語勉強するの」と生徒に尋ねられると困るときがあった。英語であれば「入試で使える」と答えることができる。今では、「AO 入試で使える」と答えることができるようになった。また、そういった意味で「仕事につける」というのも1つの答えになると思うが、大学では進路開拓をしているのか。

A (庵途)：現状としては大学院に行くというケースが挙げられる。就職については学生の希望する企業、業種がそれぞれあるので難しい。最近では修士だけ出て就職するケースも多いが、そういう選択しも開拓していきたい。

Q (左)：語学をツールとして就職につなげるということは。

A (庵途)：地場産業ともコンタクトをとっているが、会社の人材育成システムの中で、「韓国語を使う部署に来てください」ということで採用することは殆どない。

A (石坂)：朝鮮語を使う仕事に就くというのは難しい。当然ですが、英語ができなければサムソンジャパンに入れない。とは言っても高校で朝鮮語を教えるというのは重要である。私の教え子で、ふつうの会社に就職した学生がいるが、世の中でどのように通訳・翻訳の仕事がまわっているかを知ることが大事だからという理由からだった。そういったところで経験を積んでから翻訳家として自立した。ある仕事につくまでは様々な経路がある。専門職につくのであれば、一定の時間を確保しろということを常に学生に話している。専門職につくのであればあれば一定の時間をかけ、学びながら生きてごらんということである。

A (渡辺)：韓国企業は韓国語能力だけを見ているわけではない。たとえば、私の学生の例でいうと英米学科の学生がアジアナ航空に就職したという例もある。その学生は就職が決まってから、在学中に会社の研修として韓国で語学研修を受け、韓国語がある程度できるようになったが、そういった例もある。

A (黒澤)：教員免許についてだが、2020年に向けて第二外国語を増やそうとしている。韓国語を開講希望している高校で、担当講師が見つからないという例もある。高校で韓国語を学ぶ生徒が多いというのは力になる。第二外国語を増やそうとしている東京都を支援していきたいが、そのためには東京都に登録をしてほしい。東京都への登録は東京都民でなくても可能である

A (水口)：東京都への登録者数を増やすことも大事であるが、東京都の採用条件となっている教員免許保有というところも変えていく必要がある。両方からアプローチしていくことが必要である。

A (左)：大阪では TOEFL などのハイスコアを持っていれば、教員免許がなくても教団に立てる制度がある。

武井：特別市民講師、外国語講師などの制度もあり、韓国の資格持っていれば採用する。

黒澤：そういう先生が増えれば JAKEHS のメンバーも増えてこの場が潤う。

武井：東京都の教員登録の実情

12:00

各ブロックの報告と今後の活動について（司会：川上知美）

一東ブロック（倉島礼子）：若い仲間が増えてきている

一西ブロック（川上知美）：ブロックモイム、2～3か月に1回

ICT授業について…など

・民団、韓国文化院との連携

帝塚山学院大学の K-POP 韓国語スピーチ大会

発足の段階から高校教員との密接な連携で開催してくれた

・若いメンバーが活躍している

新しい人に入ってきてもらってネットワークさらに広げたい

一はじめてのメンバーコメント

- ・平中ゆかり
- ・岡本伸也
- ・原田智津子
- ・金洋見
- ・金恩志
- ・姜恩姫 会社員
- ・全權姫
- ・齋藤盛午

一会長から今後のこと（左美和子）

・来年は西開催だが、南にアプローチできていないが、李菊枝先生から新長さんを通して、来年は広島で開催できそうだ。

一李菊枝

・久しぶりに参加。介護が始まった。南のことが心配だった。広島は元々南ブロックだった。自分たちがやってきたことが消えてしまうのが残念。世代交代してもそのまま消えてしまうことができない。